

機関誌 サヘル 100号記念号

巻頭言：マリでの砂漠化防止活動30周年に際して

代表 坂場 光雄

サヘルの森は、1987年1月に民間の援助団体(NGO)「サヘルの会」として発足し、2017年1月で、30周年を迎えました。30年にわたって活動を継続できたのは、会員の皆様やご寄付・ご協力をくださいました市民・諸団体の皆様のおかげです。深く御礼申し上げます。

また、事務局や運営、情報の提供など、日常活動をボランティアで支えてくださいました皆様、現地で協力をいただいた多くのマリの皆様にも、感謝を申し上げます。

団体設立の目的は、サヘル地域の砂漠化を防止して、そこに住む人々が安定した生活が築けるように協力することです。10年余の活動でサヘル地域にいくつかの小さな森ができたことを契機として、名称を「サヘルの森」と改め、1999年11月に特定非営利活動法人(NPO)として、東京都の認証を受けました。

サヘルはサハラ砂漠の南縁地帯で、砂漠の「岸辺」を意味します。サヘルに生きる人々の暮らしが根づけば砂漠が芽吹く、と考えています。

マリ共和国に日本人スタッフを派遣して、人々と暮らしを現地で共有しながら、共に汗を流して活動する方法で、植林や農業の一部、各種生活改善など幅広い活動を行ってきました。

最近の10年間はバマコの郊外100km圏の村々を中心に、過伐採や開発で荒廃した里山の再生を目指して、



バオバブの実や果肉の粉を買い付ける坂場代表(ベンゲブグー、2011年)

次のような取り組みを進めています。

- ①多くの村を対象として直接村人への苗木配布を繰り返しています。これで育てることを学び、緑化の機運を盛り上げる契機としています。
- ②荒廃地植林試験地や見本林で、様々な樹種、植林方法を試験して、見学、研修等にも利用できるモデル林を育成しています。
- ③地域苗畑主の協力で、村の有志の緑化技術等の研修を行い、里山再生の担い手の育成を進めています。

治安の不安定化もあり、活動が制限される事態も考えられますが、安全を確認しつつ、引き続き、現地に足を運び、みどりの国際協力に取り組んでいきたいと思ひます。

今後ともご支援、ご協力をお願い致します。



写真で見る30年一現地活動編

FBN ファギピヌヌ 湖底での始まり、広がった森と地中火 1988-1994、1996-2001



A-1 1988



A-4 1988



A-2 1988



A-3 1988



A-5 2000



A-6 2006

- A-1：ファギピヌヌ湖旧湖底での植林（ティンナイシャ村）
- A-2：宿舎脇の苗畑（ティンナイシャ村）
- A-3：斜路の井戸（ティンナイシャ村）
- A-4：長根苗でケーズ砂丘固定（ムブナ村）
- A-5：紛争で住民不在のため拡大した森林。利用のため森林整備（ムブナ村）
- A-6：地中火により枯死した森林（ファギピヌヌ湖旧湖底）
- B-1：ニジェール河氾濫原で生長したユーカリ林（ティンテール村）
- B-2：ドラム缶窯による炭焼き（ティンテール村）

TBT トンブクトウ ニジェール河氾濫原での植林熱と木材利用 1991-1994、1997-2001、2003-2008



B-1 1988



B-2 2003

MPT モプチ

村落開発の試み 1992-2000、2008-2013



C-1 1995



C-2 1998

TMN トミアン

現地 NGO とのコラボ 2003-2012



D-1 2005



D-2 2005

- C-1: フルベ語の識字教育 (ニナゲー村)
- C-2: タマネギ栽培 (ジャンウェリ村)
- D-1: 植林ワークショップ (ヤッソ村)
- D-2: ラテライト 荒地植生回復試験 (セウラソ村)
- E-1: 柵とする刺枝確保のための巢植え (ティンタハッテン村)
- F-1: アリ塚植林 (ファナ試験地)
- F-2: 地域苗畑協力のもと 苗木配布 (ウオロド村)



F-1 2014



E-1 2008



F-2 2014

GOS ゴッシ

ゴッシ湖畔での植林 2006-2008

FAN ファナ

苗木配布と小さな林づくり 2007- 現在



里山再生の取り組み

アカシア・セネガルの生垣づくり



01



02



03



04



05



06

- 01：アカシア・セネガルの生垣。刺枝を切って、外側に押し付け、家畜が入らないようにする。
- 02：植林地の周囲を生垣とするため、苗木を植える。
- 03：アラビアゴム（樹脂）が採れる。身近なところでは乳化剤・安定剤としてアイスクリームなどに、固着剤として絵の具などに使用する。
- 04：生育促進のため、草本盛土処理を行う。
- 05：植えた木が大きくなり、ファナ地域でも何カ所か種子が採れるようになった。
- 06：床播きした稚苗をポットに鉢上げする。

- 07：接木して大きくなったズィズィフィス改良種。枝が垂れてくるので、支柱で支える。
- 08：改良種を接ぐために、野に生えているズィズィフィス自生種の実生を掘り出す。
- 09：畑に生えている自生種に改良種を接ぐ。
- 10：接木した穂木から芽が出てきた。台木からの芽を取り除いて、改良種の生長を促す。
- 11：ピンポン玉大の実がなり、青いうちに収穫する。甘酸っぱく、青りんごのようなシャリシャリとした食感が美味しい。市場で高値で取引されている。

ズィズィフィス改良種の育成



07



08



09



10



11



スタッフの覗いた最近のマリの生活



01



02



04



03



05



06

01：バマコ市内の大型ディスプレイ。動画の広告が流される。暴徒化したデモの標的にされる。

02：安全運転を促す標識。「2011年2月6日、4名死亡、1名重傷事故発生」とある。

03：日本のODAで建設中の小学校校舎。従来工法よりも丈夫な資材を使っていると村人に感謝される。

04：モロッコの企業がマリ政府と契約し、バマコ市内の清掃とごみ処理を請け負う。市内のゴミ山が消えた。

05：ミネラルウォーターが至るところで売られるようになった。1袋 50CFA (約 10 円)。小企業の場合は水道水との噂も。

06：トラック満載に運ばれたタマネギ。オランダ、モロッコなどから輸入される。他にも輸入されたジャガイモ、ヤムイモなど、バマコの都市生活者に消費される。

07：電話会社が行う送金サービススタンド。身分証明書を提示し、送金額と手数料を払えば、遠隔地の親戚や知人に送金できる。受取人はスタンドや提携商店で送金を受け取れる。日本のように銀行送金ではなく、口座がなくても送金できるこのようなシステムが急速に普及した。

08：バマコ近郊へ住宅地が拡大している。平地は埋まり、丘陵地へと拡大している。



07



08



『会員番号物語 100号記念メッセージ』 ～100文字に込めた思い～

1987年にサヘルの会を発足したときの発起人は「45人」でした。現在、最新の会員番号は1563番です。

サヘル活動は今まで多くの方に支えられながら活動を続けてまいりました。

100号記念号には、多くの方から100文字に思いを込めてメッセージを頂戴しました。

○山崎恭子さん(会員番号:1552)

会員になったのは最近ですが、夏体験ボランティアの草刈りで花咲き村と出会い、サヘルと出会い、20年ちょっと。福祉も心の中に花を育てる事だと思っています。地球にも、人の心の中にも花と緑が溢れますように。

○柴田千代美さん(会員番号:1491)

砂漠に緑?二階から目薬やん!と思っていたけれどスタッフ皆さんの命がけの(本当に心配です)成果が少しずつ実を結び森の写真や現地の人達の笑顔を見ると自分も僅かに役立っている喜びも感じさせてもらっています。

○神立和明さん(会員番号:1470)

100号おめでとうございます。サヘル森の活動が、他団体や関係諸機関とスクラムを組み、砂漠緑化とマリの人たちの真の自立支援となるため、今後も微力ではありますが、一会員として活動して参る所存です。

○松永健治さん(会員番号:1360)

時は流れるもので、私たちの関係も20年を大きく超えるものとなりました。治安やマンパワーなどの問題で思うようにいかない所も多々あろうかと思いますが、現地の人々や地球の幸せに少しでもつながれば幸いです。

○松浦素子さん(会員番号:1224)

農大生による「ちゃへるの会」に参加させてもらいました。サヘルの会は実際に現地で活躍している憧れの存在でした。何よりも事務所の雰囲気が居心地良くて入り浸ってしまった気がします。視野を遠くへ広げてくれます。

○飯塚真理子さん(会員番号:539)

子どもが小さい時に新聞の社説でサヘルの会を知りました。親として子どもに残したいものは何か—そんな事を考える中に自然環境を守っていく事があり、遠いアフリカで植林活動をしていくサヘルを応援したく会員になりました。

○岩崎俊彦さん(会員番号:438)

100号記念おめでとうございます。スタッフの皆様の御尽力に感謝いたします。これからもささやかですが資金支援をして行きたいと思っております。安全に十分注意して活動して下さい。

○三田育雄さん(会員番号:385)

100号の発行の間に継続していた貴法人の地道な活動に敬意を表します。そして、また新たな歩みがスタートすることをお祝いしたいと思います。

○田嶋千由紀さん(会員番号:334)

会費を払うだけの私。「砂漠化」の教材研究でサヘルの会を知った。その時の生徒は40代。木を植えに行こうと誘った父は鬼籍23年目。その間、地道に森を育て続ける人達がいる。森を指針に小さな事を続けたい私、334番。

○島岡てるみさん(会員番号:221)

30年続いた会の年月を思うと、サヘルに関わる多くのメンバーの努力の賜です。私には遠いマリの国であり、常に夢と希望を持たせてくれる世界なのです。今の活動が続く限り、私には、元気がいただけます。感謝。

○江上久美子さん(会員番号:96)

入会から30年、新宿の喫茶店での若い人達とのミーティングを思い出します。小島先生のお話初めサヘルで学んだことは数限りなく、今も様々な事を考える指標となっています。世界中が危うい方向に向いマリの治安が心配です。

○久保隆一郎さん(会員番号:94)

「サヘルの会」が発足して3年目の90年、チャリティウォークに運営団体として参加した。私は広報を担当し、キャッチフレーズに「歩く大地はひとつの地球」が採用された。翌年は「歩けば地球が見えてくる」がポスターになった。

○小島通雅さん (会員番号:5)

現地の治安状況で余儀なく北から南へ移ったりしていますが、思う存分やらせて頂いた30年間でした。その間現地の人々から数知れぬ感謝の言葉を受けました。彼らと共に、ご支援頂いた皆様に心から感謝致します。

…会員番号は整理のための数字ではない。会員番号にはひとつずつのドラマと思いがある。今は欠番の人の思いも積み込んで、会は前に進んでいきます。





写真で見る30年一国内活動編

イベントー広報活動、ワークショップ



A-1

1989



A-2

2014



A-3

2002



A-4

1999

A-1: 東京グリーンウォーク '89 (東京都)

A-2: みどりとふれあうフェスティバル 2014 (日比谷公園)

A-3: 横浜国際協力フェスティバル 2002・苗木作りワークショップ (横浜市)

A-4: プゲー (トアレグ族のテント) のワークショップ (奈良市)

B-1: 実践セミナー「身体で考える植林活動 第2回一木を植える」(藤沢市)

B-2: 実践セミナー「身体で考える植林活動 第3回一森を育てる」(横浜市)

B-3: 定例活動 2014年5月(羽根木公園～世田谷城址)

セミナー、定例活動ーアフリカ、植林、木を学ぶ



B-1

1999



B-2

1999



B-3

2014

サヘルキャラバン、サヘルキャンプ
— 地方会員との交流



C-1 1995



C-2 2008

キッチンサヘル



D-1 2014

- C-1: サヘルキャラバン in 富山 (富山市)
- C-2: サヘルキャンプ (長野県白馬村)
- D-1: キッチンサヘル (講師: 青木ラフマトゥさん) (横浜市)
- E-1: 安堵町立安堵小学校環境教育授業 (奈良県生駒郡)
- E-2: 神奈川県立港北高校「NGO 特別授業」泥染め体験 (横浜市)
- E-3: 横浜市立浦島丘中学校資源回収金委託式 (横浜市)
- E-4: 山田洋治商店に回収牛乳パック搬入 (埼玉県新座市)



E-1 1989

学校との関係—お話し会、牛乳パック回収



E-2 2013



E-3 2009



E-4 2003



サヘルの森 現地活動・30年間の歩み

西暦	活動等
1987	サヘルの会設立(1月) 。現地調査隊派遣(6~7月)。
1988	マリ政府と活動協定締結(1月)。トンブクトゥ州ファギピンス湖北岸・ ティンナイシャ村(TA)で活動開始(2月) 。 バマコ(BKO)事務所、トンブクトゥ(TBT)連絡所を開設。
1989	北岸ズエラ、ティンナファラジ、南岸ムブナ(MBN)と活動を展開。
1990	ティンナイシャ村で2kmの植林帯が完成(2月) 。ピンタグングに新規苗畑開設。
1991	民族運動がくすぶり武力衝突。日本人スタッフ、反政府軍に拘束、翌日解放(5月)。危険回避のため、日本人はバマコへ。現地活動は縮小。(民衆蜂起後、3/26クーデターでトラオレ大統領失脚。)
1992	トンブクトゥ及び周辺村で植林協力活動。日本人、TBTを引き上げ(12月)。MBNの活動はマリ人のみで継続。 モプチ州で新たな現地調査(3月) 。 ニナグー村で活動開始(10月) 。 (4月に平和協定調印。治安は不安定。選挙後、コナレ大統領就任、民政移管完了)
1993	マリ人スタッフがムブナで苗木配布をするが、治安悪化のためグンダムへ。トンブクトゥと近郊で植樹支援(5月より)。 モプチ州ではニナグー村他で菜園、井戸掘り開始。
1994	(1月、CFAフラン切り下げ)。モプチ州では4ヵ村で村落開発活動(井戸掘り、識字教育、グループ支援など)。 トンブクトゥ州での活動を中断(10月)。
1995	モプチ州で村落開発活動継続。
1996	TBTに現地調査派遣(5~6月)。TAでは住民が帰還し、拡大した植林帯を伐採利用。
1997	モプチ州で現場や支援体制の問題から中断(9月)。 トンブクトゥ州で活動を再開(9月) 。
1998	「アフリカに毛布を送る運動」の委託で帰還難民に毛布配布(1・2、12月)。TBT近郊で「1村10本100カ村運動」を展開。MBN・ケース砂丘への植林を開始(11月)。モプチ州での活動を再開(10月)。
1999	トンブクトゥ、モプチ州で活動継続。都の認証を受け、 特定非営利活動法人サヘルの森と改称(11月) 。
2000	ファギピンス湖旧湖底に広がった森林の整備を実施。モプチ州プロジェクトを終了(8月)。
2001	MBNで植林と苗木配布を実施(8月まで)。トンブクトゥの町周辺で植林、苗木配布、井戸補修を実施(9月まで)。 TBT事務所を閉鎖。マリ人スタッフの雇用終了、プロジェクト一旦中断。
2002	TAで現況調査。森の利用の一つとして、炭焼の実証実験を実施。在日マリ大使館開設(6月)
2003	セグー州トミニアンやトンブクトゥ州ティンテールでドラム缶窯炭焼きワークショップを実施
2004	トミニアンで荒地植林開始 。TBT周辺で苗木配布、井戸補修を実施。伐採禁止令(8月~翌1月)。
2005	クリコロ州バマコ北部地域で植林と苗木配布を開始。
2006	トンブクトゥ州ゴッシ地域・ゴッシ湖畔で刺枝供給のための植林を開始。
2007	クリコロ州ファナ周辺の村で苗木配布と荒地植生回復試験を開始 。
2008	みどりのポスト事業形成調査。(在マリ日本大使館開設。)
2009	マリ北部の治安悪化により、トンブクトゥ、ゴッシでの活動休止。
2010	バマコ北部、ファナ、モプチで、植林活動のネットワーク化を進める。(9/22マリ独立50周年。)
2011	バマコ北部、ファナ、モプチで、活動継続。
2012	(クーデターによりトゥーレ大統領辞任(3~4月)。MNLAがアザワド(北部3州)の独立宣言(4月)。 日本人を派遣できず、マリ人スタッフによりファナ地域に限定し苗木配布。
2013	(仏軍による軍事介入、北部主要都市奪還(1月)、北部勢力と予備的合意(6月)、ケイタ大統領就任(8月)) バマコ南部での活動を開始。マリ人スタッフによりファナと共に2地域で苗木配布継続。
2014	日本人スタッフ派遣再開。南部3地域(バマコ北部、南部、ファナ)に限定し、活動。
2015	ファナ地域で里山再生実践者研修と実践活動を開始 。(政府と北部勢力との間で平和合意。(6月))
2016	南部3地域(バマコ北部、南部、ファナ)で活動継続。
2017	サヘルの森設立30周年



国内活動報告(12月～6月)

<総会・報告会>

- ・3/26(日):榎本帰国報告会 JICA地球ひろば
- ・3/26(日):会員総会 JICA地球ひろば

<学校との関係>

- ・1/23(月):横浜市立浦島丘中学校牛乳パック回収
(榎本)(90kg、1,260円)
- ・1/30(月):白百合学園牛乳パック回収(高津)
(220kg、3,080円)
- ・5/30(月):江戸川区立新小岩第一中学校牛乳パック
回収(高津)(370kg、5,180円)

<定例活動>

- ・1/21(土):新宿山の手七福神めぐり
- ・2/18(土):旧安田庭園、たばこと塩の博物館
- ・4/15(土):高勝寺のカヤと稲城中央公園
- ・5/20(土):農工大のケヤキ並木と府中の森公園
- ・6/17(土):印刷博物館と伝通院、白山神社

★牛乳パック回収

■横浜市立浦島丘中学校

1月23日(月)にパック回収をし、2月8日(水)に資源回収委託式に出席してきました。サヘル設立の翌年1988年に初めて資源回収金を寄付していただいてから、29年経ちました。

毎年、先輩たちの意志を継ぎ、生徒会の皆さんを中心に資源回収や環境美化運動を続けてくることは大変なことだったと思います。今年就任された校長先生も、先輩たちの意志、地域の人たちの思い、アフリカへの思いを繋いでいくことは本当に大切なことだとおっしゃっていました。

今年は牛乳パックの回収が90kg(1,260円)、アルミ缶の回収分が2,246円で、合計3,506円の寄付をいただきました。生徒会長からは手紙をいただき、「お話を聞いて、改めて資源回収の持つ意味を浦中生全員が再確認できました。ぜひ私たちの思いも乗せて、サヘルに届けて欲しいです」と思いを託されました。

来年は30年目の節目を迎えます。生徒の皆さんの活動を後押しできるような企画を考えられたらいいなと思っています。(榎本)

■白百合学園

白百合学園とはおそらく20年以上前からのお付き合いだと思います。2007年に回収とお話会でお邪魔して以来ですから約10年ぶりの訪問でした。前回の回収金でゴッシンに記念植樹をしてもらったのですが、その後の様子を報告できないのが残念でした。アルカイダがマリの治安にも関係しているという話は、先生、生徒の皆さんもご存じないようで驚かれていました。回収は220kg、3,080円となりました。(高津)

■江戸川区立小岩第一中学校

前は9年前の2008年1月に回収に来ており、こちらの学校も回収金でゴッシンに記念植樹をしています。生徒さんたちが大人になる頃には、マリも平和になって、ゴッシンにも観光に行けるよう祈らずにはられません。回収は370kg、5,180円となりました。(高津)

牛乳パック回収の活動は、各学校及び(株)山田洋治商店のご協力によって実施されています。ありがとうございました m(_ _)m

★アースディ奈良に出展

4月22日(土)島岡一家と島岡家にホームステイしている中国人留学生と4人で参加しました。77団体が参加しており、全体としては自然食品、オーガニック製品などのブースが多く、アフリカ関係ではJICA関西とアフリカ理解プロジェクトが参加していました。

奈良市長さんや前に奈良の他の団体で活動していた人など、いろいろな人がブースに寄ってくれました。中には中学校の先生で、「ケニアに旅行中に拉致(?)されたけれど、アフリカは大好き」という方もいらっしゃいました!持ち込んだ商品の売上もよく、楽しいイベント参加となりました。(島岡)

★みどりとふれあうフェスティバルに出展

5月13日(土)、14日(日)に日比谷公園でみどりとふれあうフェスティバルが開催されました。初日はあいにくの天気でしたが、イベントには多くの方が来場していました。バオバブとカイセドラの苗木も持って行きましたが、葉が落ちたあとまだ新芽が出ていない状態だったのであまり売れませんでした。バオバブの実やサハラ砂漠の砂は、喜んで触っていく人が多くいました。今後は展示に力を入れていきたいです。(原)



みどりとふれあうフェスティバル2日目
多くの来場者で賑わう

今後のお知らせ

★定例活動(7月~11月)

7月以降の定例活動の予定です。坂場代表やサヘルスタッフとおしゃべりしながら東京のあちこちを歩いてみませんか?

- 7月15日(土)子供動物園と石神井川、名主の滝
板橋区の動物園と名主の滝で涼みます。
※東武東上線「大山」駅改札10:30集合
- 9月16日(土)防災博物館と木材乾燥工芸資料館、龍眼寺
防災を学び、ハギを楽しみます。
※JR総武線「錦糸町」駅北口改札10:30集合
- 10月21日(土)武蔵野中央公園と東伏見稲荷
原っぱの公園と新東京百景の神社を見学します。
※JR中央線「武蔵境」駅改札(東側)10:30集合

- 11月18日(土)食・物流の博物館と江戸の高輪大木戸
品川の面白い博物館と史跡を巡ります。

※JR山手線「品川」駅中央改札みどりの窓口前
10:30集合

★サヘルキャンプ

夏の暑い時期ですが、会員交流、自然観察、技術研修等を目的として開催します。自然に親しむと共に、アフリカ風の料理やバオバブの苗木作りなどで楽しみます。子どもも楽しめるイベントですので、是非ご参加ください。

- 日 時:8月19日(土)
- 場 所:横浜市瀬谷区中屋敷作業場
- 集 合:瀬谷駅北口10:00/作業場10:30
- 持ち物:長袖シャツ、前掛け、タオル、虫除け剤、飲料水
- 費 用:実費精算(主に食品代千円程度)

★七夕募金のお願い

夏季恒例の七夕募金へのご協力をお願いいたします。短冊には平和への願いを込めたいと思います。同封の振込用紙をご利用ください。

★会費納入にご協力ください

サヘルの森はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には「機関誌サヘル」が届きます。お申し込みは郵便振替で以下の口座に振り込んでください。

【郵便振替口座】 00176-6-115054
サヘルの森

特定非営利活動法人 サヘルの森

住所:〒194-0013東京都町田市原町田1-2-3
アーベイン平本403(株)エコプラン内
TEL:042-721-1601(留守電対応)
FAX:042-721-1704
HP:<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>
E-mail:sahel-no-mori@jca.apc.org

機関誌『サヘル』100号 記念号
2017年7月5日発行
発行人:坂場光雄
編集・印刷:(株)ネオ・コミュニケーションズ